新交響楽団
第97回演奏会

指揮
芥川也寸志

東京文化会館
1982年9月15日(水・祭)
6時30分

ショスタコーヴィチ
祝典序曲　作品96

伊福部　昭
日本狂詩曲

Ⅰ．夜曲
Ⅱ．祭

チャイコフスキー
交響曲第5番　ホ短調作品64

Ⅰ．ややゆっくり―活気をもって速く
Ⅱ．ある程度の自由さをもち，ややゆっくり，うたうように
Ⅲ．「円舞曲」中位に速く
Ⅳ．「経曲」ややゆっくり，威厳をもって―活気をもって速く

アマチュアオーケストラ
新響

D. D. Shostakovich
Festive Overture Op. 96

A. Ifukube
Japanese Rhapsody

Ⅰ．*Nocturne*
Ⅱ．*Fête*

P. I. Tchaikovsky
Symphony No. 5 e-minor Op. 64

Ⅰ．*Andante—Allegro con anima*
Ⅱ．*Andante cantabile, con alcuna licenza*
Ⅲ．*Valse: Allegro moderato*
Ⅳ．*Finale: Andante maestoso- Allegro vivace*

新交響楽団

新交響楽団は1956年3月創立，主婦，学生及び様々な職業を持つ社会人から構成されている。

創立以来，音楽監督芥川也寸志の献身的な指導のもとに，ソビエト演奏旅行の他，九州・沖縄等の国内演奏旅行，ベートーベンチクルス，ストラビンスキー3部作一挙上演等を行った。

1976年には創立20周年記念として「日本の交響作品展」と名付けた2夜にわたる演奏会により，「芥川也寸志と新交響楽団」は第8回サントリー音楽賞を受賞。

ショスタコーヴィチ／祝典序曲　作品96

作曲年代　1954年
初　　演　1954年11月6日，メリク・パシャエフ指揮，ボリショイ劇場管弦楽団。（モスクワ）
出　　版　1954年ソヴィエト国立音楽出版所
楽器編成　fl. 3，(picc. l)，ob. 3，cl. 3，fg. 3，contra-fg.，hr. 4，tp. 3，tb. 3，tuba，timp.，tamb-milit.，trgl.，cymb.，bass-dr.，str. 終結部においてはさらに，hr. 4，tp. 3，tb. 3，が加わる。
演奏時間　約6分

母なる川“ヴォルガ”は，全ソヴィエトの河川による輸送の半分を占めるにもかかわらず，内陸のカスピ海に注いでいた。そこで，南ロシア鉱工業地帯を通って黒海に注ぐドン川と運河で結ぶことは，ロシア全人民の強い願望であり，既にピョートル大帝時代，最初の試みがなされた。その後，いく度かの着手，中断を経て，第2次大戦後，本格的に工事は再開され，計画より2年早い1952年，全長101㎞，13の水門を持つ「レーニン名称ヴォルガ・ドン舟航運河」は完成した。

「祝典序曲」はこの完成を祝って1954年に作曲されたもの。華やかなファンファーレに続くプレストの主題は「森の歌」第5曲，「人民よ立て，偉大な事業に」に基づくもので，続いてチェロとホルンによりゆたかな旋律が歌われ，最初の主題と交わりつつ，しだいに高まってゆく。再び奏せられる最初のファンファーレには，さらに補強された10人のブラス隊が加わり，頂点を築き，そのままプレストに変って高潮し，荘大に喜ばしい祝典の歌をうたい上げる。

なお，この曲は，ブラスバンドにおいては，常識と言うべき重要なレパートリーになっていることは，お聞きいただけば，頷けることと思う。

伊福部　昭／日本狂詩曲

作曲年代　1935年（昭和10年）夏
初　　演　1936年4月5日，ボストン，フェビアン・セヴィツキー指揮ボストン・ピープルズ・シンフォニー・オーケストラ
出　　版　1937年　チェレプニン・コレクションとして東京の他，パリ，ニューヨーク，ウィーン，上海で出版
楽器編成　picc.，fl. 2，ob. 2，cor-ing.，cl. 2，bass-cl.，fg. 2，contra-fg.，hr. 4，tp. 2，tb. 3.，tuba，timp.，castagnetta，tamb-milit. con corda，tamb-milit. senza corda，tamb-basco，wood block，piatti，gran cassa，tam-tam，pf.，hp. 2，str.
演奏時間　約16分

「日本狂詩曲」が作曲された1935年，伊福部昭は22才，北海道帝国大学林学部を卒業し，林務官として北海道の僻地に生活していた。既に彼は，スコアやレコードをたよりに，独学で作曲法や管弦楽法を勉強していたが，札幌二中時代からの親友，三浦淳史（現，評論家）の強い勧めで，当時三浦が文通していた，ボストンの指揮者，フェビアン・セヴィツキーへ送るべく作曲した彼の最初の管弦楽作品が「日本狂詩曲」である。なお，当時を述懐して，伊福部は三浦のことを「私をそそのかしたメフィストフェレス」と語っている。

またちょうど同じ頃，日本人の管弦楽作品を公募する「チェレプニン賞」が発表されたため，これに応募したところ，ルーセル，イベール，オネゲルら，パリ在住の著名な作曲家の審査により，第1位に入賞し，この作品は，我国で初めて国際的に評価を得た管弦楽作品となった。

この作品で作曲家が表現しようとしたものは，アイヌ語でシャアンルルーと呼ばれる北海道中部高原地帯で過した少年時代にふれたアイヌ民族や移住民たちの音楽や生活から感じとった逞しさや悲哀であり，独自に西洋音楽の語法を咀嚼し，自らのことばとして，この民族の心を語ろうとした姿勢が，高い評価を得たものである。

曲は，当初3楽章形式だったものを，チェレプニン賞応募の際，規定の時間に収めるべく，1楽章が割愛され，そのまま出版されたため，2楽章形式となった。

第Ⅰ章　夜曲（Nocturne）

2台の太鼓のリズムにのって歌われるヴィオラのソロは，少しずつ細かな変化を聞かせ，これにフルート，ピアノ，ホルン，他の打楽器などが次々に加わって進んでゆく。しかし，決して盛り上がるのではなく，あたかも遠い行列がやや近づき，再び遠くへ去ってゆくのが風にのって聞こえてくる，といった様子を思いうかべる。つぶやくような木管の旋律の中間部の後，再びあらわれる冒頭のメロディーは，今度はヴァイオリンで奏され，最後

はヴァイオリン・ソロが，スル・ポンティチェロ（駒の上で）の奏法で悲しげに歌った後，ハープのスケールがしめくくる。

第２章　祭（Fête）

第１章の沈んだ様子から打って変ってにぎやかな楽章で，まず，シンバルとウッド・ブロックが囃したてるなか，クラリネットが，おどけた旋律で先頭を切り，それっ!!とばかりに全員が加わり，お祭りの気分を煽りたてる。しかしここは，決して上付いた大騒ぎではなく，「きわめてリズミックに，しかも重みをつけて」とあるように，もっぱら力強さを表現している。３小節の太鼓のソロのあとは，トランペットを皮切りに，次々と交替して登場する主役たちに唱和したり，あるいは，対位法的にからみ合ったりしながら，明暗さまざまの色彩をみせつつ，力強く終結に向かう。

このように見事な対比を聞かせる２つの章は，まさに日本人の心の中に持つ“陰陽”２つの面を表現している。すなわち，第１章は個々の人々の心の中にある，悲哀を秘めながら粘り強く困難に立ち向かう底力の強さであり，第２章では，その人々が結集し，心をひとつにした時に発揮する計り知れないエネルギーの強さを表現していると言える。

この曲のスコアが国際的に出版されたものである為，打楽器は一般的な楽器名が記されているが，本来，作曲者は，和楽器の使用を意図している。今回の演奏では，カスタネットとして，明清楽と共に中国から渡来した「拍板（バイバン）」を，ウッドブロックには，東南アジアの「ラリ」を，シンバルは本来仏具である「銚鈸（にょうはち）」を使用した。これらはいずれも伊福部先生所蔵の大切貴重な物である。

チャイコフスキー／交響曲第５番ホ短調作品64

作曲年代　1888年６月～８月26日
初　　演　1888年11月17日　ペテルブルグ　作曲者指揮
楽器編成　fl. 3,(picc. 1), ob. 2, cl. 2, fg. 2, hr. 4, tp. 2, tb. 3, tuba, timp., str.
演奏時間　約42分

この曲が作られた1888年，チャイコフスキーの作曲家としての名声は既に確立していた。５ヶ月のヨーロッパ旅行での演奏会と社交生活は華やかなものだったが，その反面，初老を迎えつつあったチャイコフスキーの心身をすりへらし，持前の憂欝な懐疑の気持は抑えがたいものとなっていた。「自分が得た名声は一体何になるのだろう。それよりも静かな隠棲のほうが望ましい……」と語っている。

第４交響曲を作曲してから既に10年，創造力の枯渇を怖れた彼は，これを克服すべく，ロシア西南部フロロスコエ村に望み通りの場所を得，この第５交響曲の作曲を開始したが，ペンは思いの外順調に進み，約３ヶ月ほどで完成した。

このような経過で作曲されただけに，チャイコフスキー自身，この曲にあまり自信が持てず，当時のパトロン，フォン・メック夫人にあてて「あの交響曲のなかにはイヤなものがあります。大げさに飾りたてた色彩があります。人々が本能的に感じるようなこしらえもの的な不誠実さがあるのです。」と書き送っている。

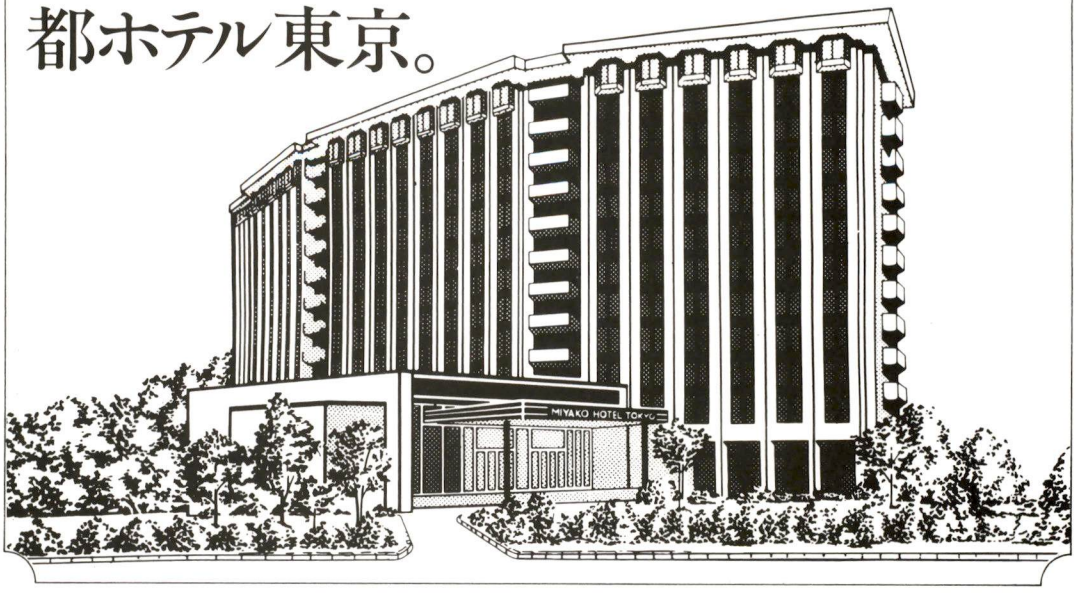
初演は1888年11月17日，ペテルブルグでチャイコフスキー自身の指揮により行なわれ，聴衆はこの大作曲家の自作自演に大いに熱狂したが，新聞の批評は悪く，チャイコフスキーをさらに落胆させた。しかし　一般の受けは良かった為，続いて各地で演奏され，翌年３月のハンブルグでの演奏で好評を得，彼もようやく自信をとりもどした。

たしかにこの曲は，若者のおもかげを残し緊張感にあふれる第４番と，老いによる憂うつに支配された第６番との間で，中途半端なものともいわれたが，むしろその両方を冷静に見つめた上でのあこがれや慰め，心を和ませる情感と，若い日の力をとりもどそうとする意欲を感じとることができる。

この曲は第４番と同じく，ひとつの特徴ある動機が全楽章にわたって用いられ，強く全曲を支配している。第１楽章冒頭のクラリネットの旋律がそれで，俗に「運命の動機」とも呼ばれているが，チャイコフスキー自身，この曲の内容についてあまり語っておらず，標題楽的要素は少ない。

もう１つの特徴は，第３楽章にワルツを用いていることである。通常ならばスケルツォ又はメヌエットが入るところだが，正にチャイコフスキー節（ぶし）とも言うべき流麗なワルツは，おそらく終楽章の劇的な盛り上りを強調するために用いられたものと思われる。

おもてなしは、緑のうるおいと静けさです。
都ホテル東京。



都心とは思えぬほどの豊かな緑と閑静な環境は、最高のゆとりとくつろぎをお楽しみいただけます。
広大な日本庭園に囲まれた都ホテル東京。ゆったりとくつろげる500の客室。
フランス料理のグリルルームをはじめレストラン・バーも多彩。
大小の宴会場は、国際会議からファミリーパーティまで、あらゆるお集りにご利用いただけます。

緑ゆたかな美しいホテル
都ホテル東京
〒108 東京都港区白金台1丁目1-50(清正公バス停前)
お問合せ・ご予約…☎(03)447-3111

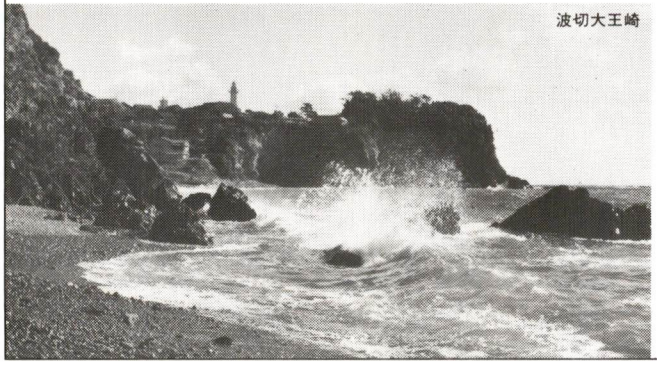
近鉄・都ホテルチェーン案内所

札　幌	☎(011)241－3631	仙　台	☎(0222)64－3541
東　京	☎(03) 572－8301	名古屋	☎(052)583－1877
京　都	☎(075)681－0018	大　阪	☎(06) 779－3251
広　島	☎(082)246－9221	博　多	☎(092)715－0001

交通のごあんない

東京駅・羽田空港(芝浦ランプ経由)……車で約25分
東京シティ・エアターミナル……車で約25分
浜松町駅(モノレール)……車で約15分
国電田町・品川・五反田・目黒各駅……車で約5分
●田町・三田駅経由浜松町駅・銀座4丁目、目黒駅へ無料ホテルバス運行。
●ホテル・成田空港間の、直通バス(有料)も運行されております。
●無料駐車場完備。

近鉄特急で伊勢志摩へ


波切大王崎

伊勢志摩めぐりのご相談はお電話で
近畿日本ツーリスト テレフォンサービス
☎03(251)0489

近鉄特急券〈座席指定〉は2ヵ月前から近畿日本ツーリスト・日本交通公社・日本旅行で発売



自然の中の心の休日
近鉄